

平成27年度広葉樹等侵入状況調査結果

1 調査地の概要

所在地：新見市菅生字クツカケ地内

樹種・林齢：ヒノキ 44年生

主な施業履歴：平成18年 列状間伐（3残3伐）（1,400本/ha→700本/ha）

2 調査区の設置と調査方法

列状間伐区(間伐区)とヒノキ残存区(残存区)それぞれに調査区を設定(図-1)し、階層(図-2)に分けて広葉樹の樹種ごとの生育本数調査及びヒノキ造林木の樹高、胸高直径、クローネ幅の測定を行った。

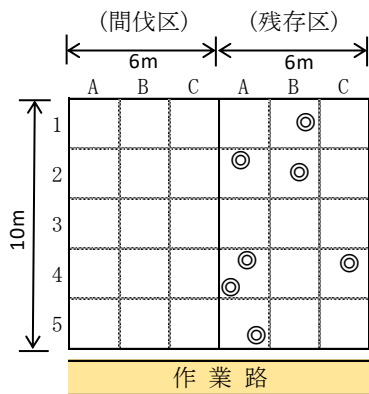


図-1 調査区画図 ◎：ヒノキ

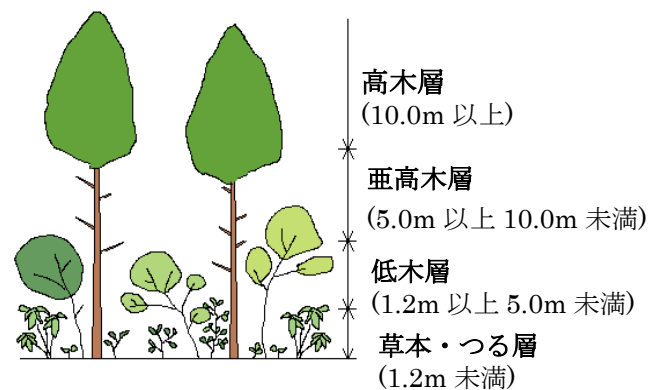


図-2 調査地模式図

3 広葉樹の侵入状況

広葉樹の出現種数は、残存区よりも間伐区の方が多かった(表-1、2)。

低木層以上の広葉樹の生育本数は、高木性の樹種が間伐区で2,000本/ha、残存区で1,167本/ha、亜高木性の樹種が間伐区で1,333本/ha、残存区で1,167本/haであった。

また、残存区で5m以上の亜高木層に達したコシアブラとマルバアオダモが1本ずつ生育していた。

表-1 間伐区の広葉樹の出現種数

	H21	H22	H23	H27
高木性	10	9	8	8
亜高木性	8	7	8	5
低木性	17	18	15	17
つる性	6	6	6	6
計	41	40	37	36

表-2 残存区の広葉樹の出現種数

	H21	H22	H23	H27
高木性	10	11	7	8
亜高木性	5	5	5	4
低木性	14	16	13	12
つる性	7	7	5	5
計	36	39	30	29

4 ヒノキ造林木の生育状況調査結果

ヒノキ造林木は、樹高、胸高直径が平成 20 年以降成長を続けている（表－3）。

表－3 ヒノキ造林木の生育状況（残存木 7 本）の平均値

	H20	H21	H22	H23	H27
樹 高 (m)	13.9	14.6	14.7	14.8	15.1
胸高直径 (cm)	23.4	25.1	25.8	26.1	28.3
クローネ幅 (m)	2.4	2.5	2.3	2.2	2.3

5 ササ類の被覆率調査結果

ササの被覆率は間伐区で 43%、残存区で 20%と間伐区の方が高かった。平成 21 年以降ササの被覆率は両区画共に増加傾向にあり、残存区が 10～20%程度で推移しているのに対し、間伐区は平成 21 年に 26%であったが、平成 27 年には 43%に達した。間伐による光環境の改善は広葉樹だけでなくササ類への影響も大きいと考えられる。

6 現地写真



残存区



間伐区

7 考察

低木性樹種の本数は、残存区で 10,500 本/ha、間伐区で 12,166 本/ha と突出して多く生育していた。一方、コシアブラやヤマウルシなどの高木性、亜高木性の樹種が間伐区で 3,333 本/ha、残存区で 2,333 本/ha 程度生育しており、今後、高木性、亜高木性の樹種は、低木層で樹高が頭打ちとなる低木性樹種を追い越し、より上層に達すると予測される。